

■ 橋の耐荷性能 誤(テキスト版)

作用/荷重	設計供用期間中の任意の時刻における作用(瞬間,瞬間)に対して
達成目標	使用目的との適合性や構造物の安全性を確保しているときに発揮すべき橋又は部材の状態が <u>適当な確からしさ</u> で達成される
照査指標	荷重-変位曲線上の強度又は変位

橋の耐荷性能は**状況**と**状態**の組合せにより定義される

状態		発生すべき橋又は部材の状態		安全性を確保しているときに
		橋としての機能が損なわれていない状態	状況直後に橋に求められる機能を速やかに確保できる状態	
状況		橋としての機能が損なわれていない状態	状況直後に橋に求められる機能を速やかに確保できる状態	致命的な状態でない
永続作用や変動作用が支配的な状況	状態を所要の信頼性で実現する。			所要の安全性を確保する。
偶発作用が支配的な状況		状態を所要の信頼性で実現する。		所要の安全性を確保する。

抵抗の制限値 (例えば5%フラクタイル値)

組合せ断面力
例えば100年間最大値

断面力

設計供用期間100年

各信頼性を(できるだけ)定量化²¹

■ 橋の耐荷性能 正

作用/荷重	設計供用期間中の任意の時刻における作用(瞬間,瞬間)に対して
達成目標	使用目的との適合性や構造物の安全性を確保しているときに発揮すべき橋又は部材の状態が <u>適当な確からしさ</u> で達成される
照査指標	荷重-変位曲線上の強度又は変位

橋の耐荷性能は**状況**と**状態**の組合せにより定義される

状態		発生すべき橋又は部材の状態		安全性を確保しているときに
		橋としての機能が損なわれていない状態	状況直後に橋に求められる機能を速やかに確保できる状態	
状況		橋としての機能が損なわれていない状態	状況直後に橋に求められる機能を速やかに確保できる状態	致命的な状態でない
永続作用や変動作用が支配的な状況	状態を所要の信頼性で実現する。			所要の安全性を確保する。
偶発作用が支配的な状況		状態を所要の信頼性で実現する。		所要の安全性を確保する。

抵抗の制限値 (例えば5%フラクタイル値)

組合せ断面力
例えば100年間最大値

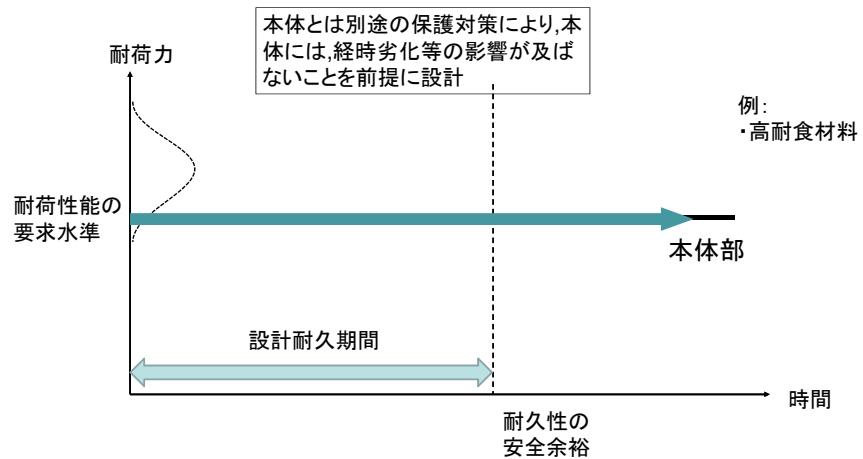
断面力

設計供用期間100年

各信頼性を(できるだけ)定量化²¹

耐久性能（方法3）

誤（テキスト版）

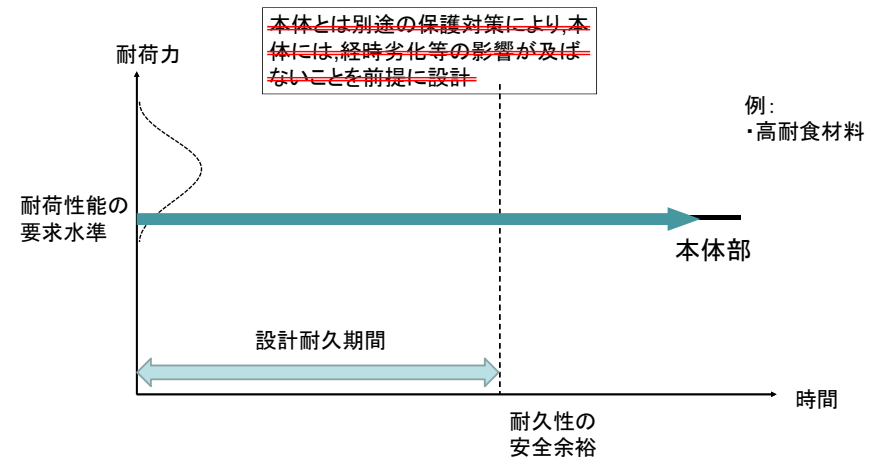


耐荷性能に考慮している部材そのものを, 目標期間内では経時劣化等の影響を無視できる材料等による

29

耐久性能（方法3）

正



耐荷性能に考慮している部材そのものを, 目標期間内では経時劣化等の影響を無視できる材料等による

29